今月の一品 令和 4(2022)年 4 月

飯能市立博物館 きっとす 今月の一品

飯能市立博物館

郡是製絲関係書類綴

波田 尚大

今月ご紹介するのは「昭和十三年　十一月 郡是製絲関係書類綴 飯能町役場」と書かれた公文書の綴りです（写真 1)。

写真 1 郡是製糸関係書類綴 表紙

写真 2 『飯能市々街図』より

郡是製絲株式会社(現在のグンゼ株式会社)が昭和 13(1938)年 6 月 18 日に、豊岡町(現在の入間市域)の石川組製糸本店工場(第一工場)を買収し、関東ではじめて同社の工場を設立しました。郡是製絲株式会社の埼玉工場は設立から 1 年後の昭和 14(1939)年 11 月 10 日に飯能町大字久下に移転するのですが、本資料にはその経緯等が記されており、飯能町が昭和 13(1938)年 12 月に同社へ提出した誘致についての陳情書の写し等が綴られています。

本陳情書には、飯能町だけでなく、名栗村、南高麗村、加治村、元加治村、精明村、高萩村、高麗村、東吾野村、吾野村、原市場村の各村長らの名前が連ねられており、飯能町に限らず、近隣の村々が本陳情に協力していたことがわかります。

当時の埼玉工場の様子を伝える資料は多くありませんが、『郡是製絲六十年史』の記述によると、昭和 17(1942)年、繭を煮るための設備釜は 304 個、同年、同社の本工場の設備釜は 345 個で、他の製糸工場と比べても遜色のない施設だったことがわかります。しかし、戦時下の昭和 18(1943)年 7 月 1 日に廃止、電元工業株式会社(現在の新電元工業株式会社)に買収され、その幕を閉じました。

令和 4(2022)年 3 月 20 日-5 月 8 日開催の収蔵品展「地図にみる飯能の移り変わり」で昭和 34(1959)年発行の『飯能市々街図』を展示しており、原町に「郡是製糸飯能出張所」という施設があったことを確認できます(写真 2)。この施設は「飯能乾繭場」とも呼ばれ、飯能の埼玉工場が廃止された後に、地元養蚕家の要望により郡是製絲株式会社が同工場より一部の機材を移して設立しました。

本資料は、かつて養蚕業が盛んであった頃の飯能の様子だけでなく、近隣の村々との交流の様子も後世に伝えてくれる一品だと言えます。

【参考文献】

社史編纂委員会『郡是製絲六十年史』郡是製絲株式会社 昭和 35(1960)年 12 月 20 日発行/新電元工業株式会社社史編纂委員会『WITH 50YEARS EXPERIENCE INNOVATE TH’RU NEXT50』新電元工業株式会社 平成 12(2000)年 5 月/入間市博物館 アリットフェスタ 2017 特別展 解説ガイドブック『石川組製糸ものがたり』平成 29(2017)年 10 月 21 日